

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102604		
法人名	医療法人北斗会		
事業所名	グループホーム宇都宮		
所在地	栃木県宇都宮市平出町377番地1 (電話) 028-689-6600		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年2月1日

【情報提供票より】(平成19年12月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日、平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人(うち兼務1人), 常勤換算6.84人	
	8 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6.84人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—1,500円 ・おむつ代—実費 ・水道光熱費—19,530円 ・レクリエーション費—実費 ・教養娯楽費—実費 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮東病院、済生会宇都宮病院、屋代歯科医院、新直井病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>医療法人北斗会が運営するグループホーム宇都宮は、病院、介護老人保健施設等と同一敷地にある、地域に密着した2ユニットのホームである。「ゆったり、いきいきと自分らしい生活を」のサービス理念にふさわしく、入居者一人ひとりの生活を大切に支えていく姿勢が管理者、職員にも見られ、個別ケアの取り組み、季節ごとの地域訪問、同業者との交流、人材育成等、ホームとして質の向上に取り組んでいる。職員はそれぞれ特技を持っており、入居者と一緒になって季節に合わせた俳句や趣味の作品を展示したり、鑑賞したりしながら、ゆったりとした時間の中で生活している様子がうかがえた。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の意義や重要性について、スタッフ会議で全ての職員で改善課題を話し合っている。管理者は職員にホームの利用状況、生活状況等を報告したり、意見を求めたりして、サービスの向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4、5、6、)</p> <p>今回の自己評価はスタッフ会議で話し合い、管理者が中心となって取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>入居者、入居者家族、地域包括支援センター職員、地域住民代表に参加してもらっている。月1回のアートセラピーを見学してもらったり、提供しているサービス内容、利用者の抱え込み防止等、報告や話し合いを行い、質の向上に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族の訪問の際に暮らしぶりや健康状態等を伝えている。1ヶ月に1度、行事案内を記載した職員手書きのお便りを家族に渡している。金銭管理については立替え払い後、毎月清算し、お便りと一緒に報告している。苦情処理委員会を設けている。職員の異動について意見も出たが、家族の意見を尊重し、対応した。また夜間入浴希望があり、勤務体制を考慮して柔軟な対応に向けて支援している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>季節ごとの挨拶回りを兼ねて近所のお宅に訪問したり、近隣の中学生の職場体験学習を受け入れたり、地域市民センターでのコンサートに出掛けたりして地元の方々や音楽鑑賞を楽しんだりしている。また隣の製作所の方々がボランティアを兼ねて庭のバラの手入れをしてくれたりしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりいきいきと、自分らしい生活を」を基本理念としている。家庭的な環境と地域住民との交流の下でゆったりと、自分らしい生活をすることを支えるケアを心掛け、理念の実現に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングの目に付きやすい場所に手づくりの色紙に理念を書いて掲示している。朝の申し送りやホーム会議等で理念に基づいた個別ケアができるよう話し合っている。職員の大切にしていることが理念に通じており、一人ひとりを大切に、ゆったりとした支援に努めている様子がうかがえた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとの挨拶回りを通じて近隣のお宅を訪問したりして、地域の中での付き合いの輪を広げている。近隣の小学校の運動会への参加や、近隣の中学生の職場体験学習を通じての交流もしている。また地区市民センターでのコンサートで地元の方々や音楽鑑賞を楽しんだりしている。市民センターの町づくり会とは連絡を密にしている。自治会や老人会には加入していない。	○	自治会、老人会への参加は難しいということであるが、参加できる範囲で参加させてもらうなどの働きかけを続けながら、事業所との双方向関係をつくっていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性について全ての職員が理解しており、前回の外部評価を踏まえた上でホーム会議等で話し合い、改善点など具体化し、家族等にも報告している。今回の自己評価は、スタッフ会議で話し合い、管理者が中心となって取り組んだ。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、地域包括支援センター職員、地域住民代表に参画してもらっている。月1回のアートセラピーを見学してもらったり、提供しているサービス内容、利用者の抱え込み防止等、報告や話し合いを行い、質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情やケアの取り組み（入居相談時の困難事案解決方法）等を市の担当窓口で相談したり、アドバイスをもらうなどして連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際に暮らしぶりや健康状態等を伝えている。1ヶ月に一度、行事案内を記載した手書きのお便りを渡している。また金銭管理については立替払いの後、毎月15日に清算し、職員の手書きのお便りと一緒に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談、苦情等の窓口を重要事項説明書に明記している。また、入居時に公的苦情処理機関について説明をし、ホーム内の見やすい場所にも掲示している。苦情処理委員会を設け、家族の要望や苦情等を運営に反映させる体制がある。	○	ホームとしても家族からの意見等を聞くことを大切に考えて対応している。意見や苦情への対応と併せて、発生要因を探り、課題を検討し、質の向上に繋げていく取り組みに期待したい。また、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みづくりとして家族会等を設けたり、意見箱を設置することなどにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用時には、経験年数に応じて異なるが2日間程度の実習を行い、入居者の意見も聞きながら調整をしている。各職員の特技を活かした役割分担を設け、入居者と馴染みの関係をつくりながら個別対応できるように配慮している。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接の介護老人保健施設との合同研修会や認知症介護実践研修、高齢者全般に共通する外部研修に参加している。併設病院の看護部長や併設施設の職員からスーパーバイザーとしてアドバイスをもらったりもしている。研修受講後はホーム会議等で研修報告資料を提供するなど職員間での共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研修（年2回）に参加したり、地区防災福祉ネットワークを通して近隣の施設間の協定を結んだりするなど、事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人、家族に何度かホームに来てもらい、ホームの雰囲気を覚えてもらったり、入居者と交流を図ってもらったりしている。体験入所して雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮している。職員が入居者の気持ちを良く聴き、家族等と相談しながら利用の幅を徐々に広げていく配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に暮らす者同士として、「こだわり、苦しみ、哀しみ、不安、喜び、楽しみ」などの入居者の思いの共感・理解に努めている。年長者である入居者から生活の技や、生活文化の大事さを教えてもらっている。訪問時も職員と入居者の会話の様子から共感・理解に努めている様子がうかがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で入居者一人ひとりの思い、希望、意向の把握をするよう努めている。入居者がどこでどのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど、言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り、入居者の視点に立って話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりに沿った、その時点に合った個別・具体的な介護計画の作成に努めている。家族の面会時に意見や気づき等を伺い、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。結果報告を家族に説明し、承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的見直しのほか、状態等に变化が生じた場合などには家族にも相談しながら随時見直しをしている。日々のホームでの様子や介護計画に沿ったケアの提供、対応の仕方などを個人のフォーカスチャートに分かりやすく記入し、職員同士で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院では定期受診を通して、医師、看護師、事務スタッフが状況を共有してくれている。市町村、地元学生等の見学、職場体験実習を要望に合わせて受け入れている。また、家族には必要に応じて法人内のサービス情報を提供している。	○	今まで地域包括支援センターとケア検討などを行うことがなく活動実績もないが、今後、利用者の意向に応じて権利擁護等の相談など協働したいと考えている。これも含めて、要望に応じて必要な時に必要なサービスを臨機応変、かつ柔軟に提供していくための取り組みを充実させていくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院が隣接しており定期的受診を通して、医師、看護師、スタッフが入居者の状況を共有してくれている。また、併設の介護老人保健施設の支援相談員や理学療法士・作業療法士に助言をもらったり、必要に応じて法人内のサービス情報を家族に提供している。併設の病院以外の受診については家族に協力をしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合を想定したカンファレンスを開き、その都度、入居者、家族の意向を聞いている。かかりつけ医師、看護師に状況に応じたアドバイスをもらったり、法人内各施設の相談員等の会議で話し合ったりもしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に関する声かけの仕方や入居者の意見に対する受容の心など、職員全員で共有して支援に努めている。個人記録等は事務室にて管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課や活動内容は細かく決めておらず、一人ひとりの「その日にしたいこと」を把握し、入居者が主人公となって希望、要望を優先した生活ができるよう、職員間で連携、調整して支援している。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園から入居者と共に収穫した野菜を利用してメニューづくりを考えたりしている。職員は入居者と一緒に食事を摂りながら、一人ひとりの好みを把握したり、食を話題に楽しんでいる。誕生日には入居者個人の希望を聞き、好きなメニューを提供したり、外食の機会を設けるなど嗜好に合わせた食事にも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活リズムに合わせ、タイミングを見計らいながら入浴の声かけをしている。午前・午後（10：00～16：00）、夜間（20：00）、就寝前の入浴を支援している。職員が支援しながら、入浴剤、化粧水等それぞれ愛用している物を持参している。入浴が苦手な方には声かけの仕方を工夫しながら入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の性格、生活習慣を見出し、できることに配慮しながら支援している。入居者同士で役割を分担しあいながら調整することも見受けられる。短歌、ぬり絵、トランプ、カラオケ等の楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しに近くのスーパーに出掛けたり、入居者個々の要望に応じて買い物に出掛けたりしている。季節に合わせて景色の良い場所へ外出したり、散歩、野菜の生育等の観察など戸外へ出掛ける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、日中は玄関等に鍵を掛けていない。一人ひとりの所在が確認出来るようになっている広いフロアで職員と一緒に椅子に腰を掛けたりしながら落ち着いた雰囲気づくりがなされていた。また、居室にいる入居者に対しては随時職員が訪問して所在確認と体調の把握をしている。		

グループホーム宇都宮

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練実施と毎月10日にホーム内の防火自主点検を行っている。また、敷地内3施設合同防災訓練時には、地域住民、地区防災福祉ネットワークの方々も参加するなど、協力が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、毎食、入居者と一緒に食事を摂り、摂取状況を把握して記録している。管理栄養士の協力を得ながら、1日摂取量1,500kcal～1,600kcalを目安に栄養バランスに配慮して支援している。水分摂取についても、お茶の時間のほか、入浴後や体操の後の水分補給を促すなどしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、三方向に窓があり明るい。床暖房が設置されている。共有空間は五感刺激の配慮がされており、木目の内装や暖色系の家具類、畳スペースには掘りゴタツがあり、家庭的な雰囲気が漂っている。また、季節に合わせた入居者の方々の俳句、趣味の作品等を展示し、鑑賞したりして居心地良く過ごせる配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、洗面台、エアコン、換気システム、収納スペースが準備されており、その他のものは基本的に持ち込みができるようになっている。居室には、テレビや家具などが持ち込まれ、家族の写真や花などを飾って、入居者それぞれの居室づくりがされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。